

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071400651		
法人名	特定非営利活動法人 安住		
事業所名	グループホーム 安住		
所在地	〒814-0022 福岡県福岡市早良区原3丁目10番6号 092-845-6037		
自己評価作成日	平成25年05月01日	評価結果確定日	平成25年06月03日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 25年05月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「仲良く元気で穏やかに」を理念とし、利用者様のお一人おひとりのペースで、ご自分らしく自由に過ごしていただけるよう支援に努めています。利用者様は、ご家族様、地域の皆様、地域の医療機関の皆様のご協力により、安心して過ごしていただくことができます。町内会に参加させていただき、地域の皆様にご支援いただいております。音楽療法、大正琴など多くのボランティアの皆様にもご支援いただいております。職員は生活経験が豊富であり、利用者様のお子様の年齢に近い職員(50代から60代)が頑張っています。職員は利用者様を自身の両親と同じような気持ちで介護させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

室見川支流の自然が残る川沿いに、グループホーム「安住」がある。魚の群れと、それを狙う野鳥や、のんびり甲羅干しする亀の様子を眺めながら、利用者の一日が始まっている。代表の介護に対する情熱を、理解して支える職員との信頼関係は、開設12年の歴史に繋がり、利用者一人ひとりを大切に介護する姿は、家族から「安住を選んでよかった」という深い信頼に結びついている。利用者は、美味しい食事をたくさん食べて、自由でのんびりと暮らし続け、主治医による往診と、職員のきめ細かな見守りで、健康管理は万全である。事務長は町内会の会計を担当し、地域情報を把握し、利用者や職員は地域行事に参加し、親しくなった住民と、散歩の途中で立ち話をしたり、認知症について相談される等、地域福祉の拠点として、信頼関係の構築が広がるグループホーム「安住」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「仲良く元気で穏やかに」を理念とし、その方らしく過ごしていただけるよう支援しております。地域密着型サービスとして、多くのボランティアの皆様へ支援いただいております。	開設時、色々と考えた結果、「仲良く、元気で、穏やかに」という理念に行き着いた。ストレートな言葉であるが、奥の深いこの理念を、職員一人ひとりが理解し、常に意識して、実践に繋げている。管理者はいつも利用者へ、「仲良くしようね」「元気でいようね」と声かけし、穏やかな暮らしを支えるために、優しい見守りを徹底している。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会・町内会に加入し、地域運営推進会議を通して、地域の祭りの参加など近隣との交流を行っています。平成24年度からは25年度まで会計を担当させて頂くことになりました。	自治会・町内会に加入し、事務長が会計を担当している事から、地域の情報を把握する事が出来ている。毎月の草むしり、川の清掃、子供の廃品回収に参加し、地域との交流に努めている。また、町内会長と独居高齢者宅を回り、「安心カード」を配布したり、認知症の勉強会、音楽療法への参加を呼びかける等、開設13年目を迎え、地域密着型グループホームとしての役割を担うべく努力している。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議において、認知症の勉強会を行っています。また、実際の介護・生活状況等をお伝えすることにより、認知症を理解していただけるよう努めています。	
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	本年の地域運営推進会議は、4回開催しました。参加メンバーは町内会・自治会・民生委員・職員・ボランティア等で構成されています。防災対策について話し合いを通じ、対策について検討し、防災訓練に生かすことができました。	運営推進会議を年4回開催し、ホームの実情や取り組み、課題等を報告し、参加委員からは、情報提供、意見や質問等出され、会議の中で認知症の勉強会を開催する等充実した会議である。「会議の定期開催」「安心カード配布」「防災対策」等について検討し、出された意見は出来るだけ速やかにホーム運営に反映させる努力をしている。
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題が発生した場合に市職員に報告、相談し指示を頂いております。今後質の向上の為、運営推進会議等に地域包括支援センターさまに参加を依頼します。	行政担当窓口に出向いたり電話等で、情報交換や困難事例の相談をして、アドバイスをもらっている。また、運営推進会議に行政職員の参加を要請し、地域包括支援センター職員の参加の実現に向けて努力している。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指導を管理者が個別に行っています。常に職員の意識向上に取り組んでいます。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、管理者が日常的に職員一人ひとりに細かく指導し、強い言葉、抑制に繋がる言葉かけに気づいた時には、職員と話し、「今の言葉、どうやるか」と指導している。安全を最優先して夜間にベッド柵が必要な場合は、事前に家族に説明し、承諾をもらっている。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の指導を通して高齢者虐待防止法に関する理解を深めると同時に、法令遵守に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には、個別に勉強の機会を設け、各種研究会への参加を推奨しています。	現在、該当者は居ないが、利用者や家族が、成年後見制度や日常生活自立支援事業を必要とする時に、いつでも説明し、申請のための関係機関への橋渡しができる体制が整っている。また、パンフレットや資料を揃え、いつでも閲覧できる状況である。事務長が外部研修に参加し、資料を持ち帰り、内部への伝達に努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容等について、十分な説明の時間を取るように努めています。起こりうるリスク、医療上対応可能な範囲等についてもご説明を行っております。契約後も、ご質問があれば懇切丁寧に対応できるように努めています。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が利用者様と個別に話し合いの時間を持つように努めています。ご家族様には、契約の際に外部の相談機関についてのご説明をしております。介護に対する不満や疑問を真摯に受け止め、質の向上に努力しています。	管理者は利用者の居室に椅子を持ち込み30分から1時間話し込む等、日常的に利用者との個々の関わりの中から意見を聞いている。家族の面会時には、家族に声掛けし、意見や要望を聞き取っている。出された意見は検討し、出来るだけ迅速に実現出来るように配慮している。また、「あずみ便り」で、細やかな介護報告を行い、家族の信頼と安心に繋げている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月5日のミーティングや毎日の申し送りの際、個別面談・勉強会において意見を聞くように努めています。介護の質の向上について、職員からの提案を受け、改善に向けて検討しています。	前回調査の改善点であった職員会議の定期開催に取り組み、毎月1回職員会議を開催し、職員の気づき、意見を収集する大切な場になっている。また、毎日の申し送り時や個人面談時に、職員の意見や要望、疑問点、悩み等を聞き取っている。管理者は、職員と信頼関係を築き、何でも話し合える関係で、会議の中でも意見が出やすい雰囲気にして、職員のやる気を引き出している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は必要時には現場に入り、職員とともに認知症ケアの提供に取り組んでいます。日常や個別面談の際に仕事上での問題や悩み、ストレス等について話し合う機会を設けています。資格取得等の予定など十分考慮して勤務シフト等も調整しています。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用の際には、利用者様の生活の質の向上を支援でき、熱意ある方を採用しています。職員は自ら考え、規則や法律を遵守し、お互いの人権を遵守し、利用者様・ご家族様・他職員と共同で、熱意を持って職務に当たれる人材であることを重視しています。	職員採用は、年齢、性別、経験、資格等の制限はなく、その人の、人間性や協調性、やる気等を優先している。職員の休憩室を用意し、休憩は声を掛け合い交代で1時間確保し、職員がリフレッシュして働ける環境である。また、希望休や、資格取得のための勤務体制等、柔軟に対応し、職員が向上心を持って生き生きと働けるよう配慮している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する資料を日常的に閲覧でき、必要に応じ資料を持ち帰るなど、自宅学習が出来る状況にしています。また、個別の勉強会の機会を設けています。	人権に関する資料を用意し、職員間で話し合い、利用者の尊厳を守り、羞恥心等に配慮した介護サービスを実践している。特に、入浴、排泄時の同性介助、プライベートの会話が漏れないようにさりげなく居室にお連れする等、利用者一人ひとりの思いに配慮した支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政、グループホーム協議会の研修・資料に加え、介護保険法を初めとし、関連法規を学習する機会を設けています。人事審査を随時行い、必要と思われる知識に関する学習や、外部研修への参加を計画し実行しています。資格取得については、シフトの調整等考慮しています。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会・日本認知症グループホーム協議会に参加しています。ブロック単位での研修等に参加しています。それにより介護の質の向上を図り、専門性を身につけ、モチベーションの維持を目指しています。共同、連携に努めています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が利用者様の言葉にすることが難しい思いや希望を日頃から察知できるように努めています。職員が利用者様の個室に訪問し、個別にお話を伺う機会も設けています。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時のお問い合わせや、ご相談については、管理者と職員が十分にお話を伺えるように努めています。入居後も気軽に相談をしていたるように、信頼関係の構築に努めています。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご相談をお受けする際、明らかに当ホームでは受け入れの難しい方(医療の必要性が重度の方)については、受け入れが出来る施設の紹介や、他制度の利用をお勧めしています。ご要望があれば、他施設の情報提供も行っています。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持たれている能力を最大に生かしていただけるよう日常生活を支援しています。利用者の得意とされていることを表現する場作りや、役割を持って生活して頂けるよう努めています。職員がわからない事は、利用者様の助言により解決出来ることも数多くございます。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様はもちろん、知人友人の方の来訪については積極的に支援しています。希望される方については、外泊や旅行等についても積極的に支援します。ご希望される方については、電話や手紙での交流も支援しています。ご家族様方と、食事を共に過ごしていただけるような場面作りも行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や友人知人の訪問を歓迎しています。利用者様が行きたいと言われる場所については、ご家族様とご相談の上、できる限り管理者、職員が同行する支援をしています。	利用者の友人、知人、遠方の親戚の訪問があり、また来て頂けるよう歓迎の気持ちを持って対応している。利用者の会いたい人や、行きたい所には、家族と相談し、出来るだけ実現出来るように努力をしている。年に2回、利用者の希望による自宅への日帰り帰宅を、職員が同行支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係については、職員が注意深く見守りを行っています。一緒に過ごして頂ける時間を持って頂けるよう支援しています。気の合う利用者様同士の親睦を深めていただけるよう、席次等配慮しています。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様やご家族様との話し合いの上で、契約終了後も馴染みの職員が面会、訪問をさせて頂いております。契約終了後も年賀状を下さるご家族様や、「近くに来たから」と立ち寄って下さるご家族様もおられます。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わっていく中での会話や見守りで、利用者様の望みや希望を察するように努めています。言葉に出来ないご本人の希望や意向については、ご家族様にご相談しています。	勤務年数の長い職員が多く、入居年数の長い利用者との関係は家族のようであり、職員は長年の関わりの中で、利用者の思いや意向を把握し、日々の介護に生かした支援に取り組んでいる。また、意向表出の困難な利用者には、職員が寄り添い、ベテラン職員のアドバイスや、利用者の表情や独り言を読み取る事で、利用者の思いの実現に向けて取り組んでいる。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活歴の聞き取りだけでなく、面会時に日頃の様子をお伝えすることにより、以前の生活習慣等を伺い、日常生活の支援に取り組んでいます。好まれる活動をホームでの生活に取り入れることができるよう努めています。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントをお一人おひとり細かく実施しています。介護計画の作成にあたっては主治医、看護師に指導を受けるとともに、利用者様・ご家族様にご要望を伺っています。担当者がご家族様との会話を深め、モニタリングに反映しています。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画、ミーティング等で日々の変化を職員が観察し、ケアの提供に努めています。引き継ぎを十分にいき、情報を共有化し、ケアの質の向上に努めています。有する力を十分に生かして頂けるように支援しています。	介護計画は、利用者や家族の意見や要望について、家族面会時や電話等で詳しく聴き取り、サービス担当者会議の中で関係者と検討し、3ヶ月毎に作成している。「足を鍛えて」という要望や訪問リハビリの希望等を計画に活かし、利用者一人ひとりの心身の状態を把握しながら、利用者の喜びと満足度を優先した介護サービスの実現に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要な利用者様については、介護記録に加え、記録を厚くしています。確実な申し送りを行い、情報の共有化に努めています。実践及び介護計画の作成にフィードバック出来るように努めています。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画を定期的に見直しています。利用者様の状態に変化がみられたときは、その都度カンファレンスを行い、チームで介護計画の見直しを行っています。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会への参加、散歩の際、地域の皆様との挨拶や会話、ボランティアの皆様等との交流があり、地域の皆様のお力添えにて安全に過ごされています。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望されるかかりつけ医となっています。入所以前からの、かかりつけ医の先生との関係を大事にさせていただいております。往診を受けられる際は、希望されるご家族様は同席されています。外部の病院に受診される際は、ご利用者様とご家族様に出来る限り職員が同行しています。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。協力医療機関による隔週ごとの往診や訪問看護を取り入れ、24時間オンコールの連携により訪問診療が充実している。また、介護職員の見守りによる早期発見で予防に努め、利用者、家族の安心に繋がっている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クリニック看護師と24時間連絡体制がとれており、日頃と様子が違う場合は、すぐに相談し指導をいただいています。診察の際には、日々の様子をお伝えし、適切な受診・看護が受けられるよう努めています。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による生活環境の変化によるダメージを最小限にできるよう、入院先に生活状況について十分な情報提供に努めています。出来るだけ早期に退院出来るように病院関係者・かかりつけ医・ご家族との連携に努めています。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応および看取りに関する指針を定め、ご家族様に説明し同意をいただいています。事業所でできることを説明し、ご家族様と協力の下、支援に努めています。	「看取りに関する指針」を作成し、終末期に入った利用者家族と主治医が話し合う機会を作り、方針を決めてもらい、「その方針にホームは従います」という姿勢でいる。病院を希望される方もいるが、ホームでの看取りを希望される家族は、「出来る事はします」と大変協力的であり、家族、主治医、ホームとのチーム支援により最近では2名の看取りを行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成しています。定期的な訓練については、今後とも力を入れていく計画をしています。消防署の協力を得て、救命講習等に参加を予定しています。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の消防訓練を開催しています。日中と夜間を想定した避難訓練を行いました。日頃から図上訓練を行い、職員の災害や火災対策の意識向上を図っています。	非常災害に備えた避難訓練を年2回実施し、うち1回は消防署の参加がある。夜間想定訓練では、避難経路、非常口、避難場所、緊急通報装置を確認し、利用者の避難方法をシュミレーションしながら職員間で話し合いを重ねている。スプリンクラー、AEDを設置し、2日分の飲料水、非常食を準備している。管理者、ケアマネ、事務長が、5分で駆けつけられる事も心強い。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの際、利用者の人格、尊厳に対する意思の向上を図っています。職員全体が、個人情報保護法の理解に努め、秘密保持に努めています。採用時には、守秘義務についての説明を行い、職員は秘密保持についての誓約書を提出しています。	利用者の尊厳を守り、自由であるがままの暮らしを支援するために、職員は、会議、申し送り等の機会に利用者のプライドや羞恥心について話し合い、親しいなかにも節度を持った介護サービスの提供に努めている。また、個人情報の記録の保管や、職員の守秘義務についても、徹底が図られている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけをし、職員側の都合で決定権を奪わないように努めています。日常の中で利用者様本人が選択しやすい状況を作るよう努めています。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や外出、喫茶店でのお茶の時間、町内行事への参加など、利用者一人ひとりの状態や意思に配慮しながら柔軟に対応するように努めています。お一人おひとりの希望やペースを大切に、強制はいたしません。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の意向を大切に、不十分な部分や判断のつかないところについては、職員がさりげなく介助をするように努めています。洋服のコーディネートについては、できる限りご本人様に選択していただいております。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事の際には、利用者様ご本人の好みや希望を最大限に取り入れる工夫をしています。テーブルセッティングや後片付けなど、一人ひとりの状況に応じながら参加をお願いしています。強制はせず、さりげない参加をお願いしています。	管理者が調理師であり、美味しい食事は利用者の健康増進に繋がるという思いのもと、調理自慢の職員が新鮮な食材を使って、工夫を重ね、「食事が本当に美味しいです」と自信を持って言える食事を提供している。利用者と職員は、同じテーブルで同じ食事を、楽しい会話の中でしっかりと食べている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の状況によって、カロリーを調整しています。好まれる料理の提供に努めています。水分摂取にも配慮し、介護記録に記載し、職員間の申し送りに際しては周知徹底しています。必要に応じ、主治医に相談し、指示をいただいております。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声を掛けて歯磨きに誘導しております。必要に応じて歯磨きの介助を行っています。必要に応じ歯科医に報告し、虫歯などの早期発見と治療につなぐことが出来るよう支援しています。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握してトイレ誘導を行っています。また、排便状況については日々確認して介護記録に記載しています。	職員は、利用者の習慣や排泄パターンを把握し、早めの声かけやトイレ誘導で、日中は出来るだけトイレでの排泄を目指し、排泄の自立支援に向けて取り組んでいる。また、職員は、排便記録を確認し、水分補給や食事の内容を考えたり、主治医に相談する等して、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材、野菜料理などを多く取り入れる工夫をしています。朝食時にヨーグルトや納豆を取り入れています。座って行うことが出来るリハビリ体操や、散歩などの機会をととして適度な運動を行うことにより、出来るだけスムーズな排便が出来るよう心がけています。便秘が続く場合は、かかりつけの医師に報告しています。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在入浴は、週3回予定しています。入浴については、バイタルチェックを行い身体状況を確認しております。入浴については、ご本人さまの希望を伺っております。	入浴は週3回を基本とし、利用者の心身状態を確認し、安心して入浴が出来る支援に努めている。入浴拒否の利用者には、職員が交代で声かけし、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。入浴すると、「あー、気持ち良かった。お風呂はやっぱりいいね」と利用者が笑顔で言われている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠状態を把握し、お昼寝や休憩をお勧めしています。日中の軽い運動、散歩やレクリエーションを開催し、夜間ぐっすり休んで頂けるよう支援しています。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の処方箋を職員が確認できるよう整備しています。処方に変更があった場合には、利用者様の状態を注視し、かかりつけ医、薬剤師に連絡報告を行うように努めています。薬剤師の訪問指導の際、服薬の状況等報告し、指導をいただいております。職員間の申し送りに周知徹底するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とされること(例:歌・音読など)、好まれることで、一人ひとりが主役になれる場や役割を持って頂ける場面づくりを支援しています。行事への参加は、利用者様と相談して決めております。一人ひとりの好みに応じた趣味(塗り絵・読書)などもして頂いています。			
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調、ご気分、意向に応じて外出や行事への参加を支援しています。散歩時は、季節の草花や鳥などの動植物を楽しんで頂いております。機会があるときは、近隣の方々とのコミュニケーションも楽しんで頂いております。ご帰宅の希望がある際には、ご家族様とご相談の上、職員が同行させていただいております。	利用者の重度化が進み、全員での外出は難しくなっている。お風呂のない日は必ず散歩に出かけ、自然の風を感じてもらい、目の前の川で泳ぐ魚や、甲羅干しをしている亀、鶯や鴨を時間の経つのを忘れる位眺める事もある。ドライブが好きな利用者には、気分転換を兼ねて季節毎の花を見てもらったり、中庭の満開のチューリップを見に出て、「綺麗ね」と話される等、利用者の生きがいに繋がる支援に取り組んでいる。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様ご本人やご家族様が希望される場合は、個別に所持出来るようにし、必要に応じて職員が援助しています。			
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、利用者様・ご家族様のご希望を考慮に入れ、できるかぎり電話を利用できるように対応しています。手紙に関しても職員が必要に応じて援助しております。			
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間・個室の壁はアイボリーで、ドアなども柔らかな木目をあしらった作りです。季節の行事に関する飾り付けを行ったり、職員が花々を持ち寄り、季節を感じていただける環境作りに努めています。食事については、できるだけその季節の物を使用しています。	3階建てビルの1階をグループホームに改築し、広い廊下と、小さなりピンルームを、住みやすくなるよう工夫しながら、季節の花や風景、利用者の笑顔の写真を掲示し、温かな家庭的な共用空間となっている。リビングでは和気藹々と食事したり雑談したり、歌を歌う等、笑い声が絶えず、中庭にチューリップをたくさん植え、ゴーヤや胡瓜の苗も植えつけ、利用者が庭に降りやすいようにスロープを完備し、利用者がほっと出来る中庭を演出している。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員は、利用者様同士の関係を深く見守り、気のあった利用者様同士の交流を支援しています。また、あまり気の合わない方との交流の際は、職員が間に入ってコミュニケーションを支援しています。希望に応じて、居室での食事等の支援もしております。			
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていたなじみの家具を持ち込んで頂いております。写真や思い出の品をお持ち頂いております。	居室のドアに折り紙の飾り物をそれぞれ飾り、利用者が出来るだけ自宅と違和感なく暮らせるように、自宅で使っていた家具や家族の写真、ぬいぐるみ等大切な物を、家族の協力で持ち込んでもらい、明るく落ち着いた居室となっている。また、面会者が利用者と、居室でゆっくり寛げるように支援している。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「わかる力」は発揮して頂いております。困っておられること、わからないことについては、職員が支援しています。職員間で話し合いを持ち、出来る限り自立して過ごして頂けるように努めています。			